

# ときわ会

No.158

令和6.12.20

ときわ会

中魚・十日町  
広報委員会  
題字・柑澤恭一

晩秋の津南町 撮影 村山 大樹 (津南中等教育学校 25年度)

## 誇りと自信をもって教壇へ

副支部長 宮澤 均 (南中学校 63年度)



先日行われた新潟県中学校駅伝大会で当校女子駅伝チームが優勝し、全国大会への切符を手にした。私も、現地に行って選手を応援してきた。当校の女子チームは、一時は一位チームと200m近く間をあけられ、監督すら「ちょっと厳しいかと思った」と言っていたほど厳しい状況に追い込まれた。私も、内心「追いつくのは、難しいかな」と思って応援していたが、選手の顔を見ていると、悲壮感は全くなく落ち着いて黙々と走っていた。むしろ、走りの中に、秘めた闘志を感じるほどであった。この自信は、どこからくるのだろうか？これだけ追い込まれているのに、自信をもって、黙々と走り続ける選手たち。そして、ついに4走者が前を行くチームに追いつき、アンカーが34秒差をつけてゴールした。見事な勝利に感動し、涙がでてきた。優勝という結果は、もちろんうれしかったが、何よりも逆境の中で、自分を信じて走り続けた選手たち

に大きな感動を覚えたのだ。

選手は、昨年からの大会を目指して、連日厳しい練習を重ねてきた。合宿も何回も重ね、体力、気力、団結力をつけてきた。おそらく、どんな状況でも動じない自信をもってこの大会に臨んだに違いない。毎日の練習が選手に自信と自分を信じる力につながったと感じている。

私たち教員は、日々現場で授業を行っている。しかし、本当に児童生徒が目を見せ「わかった!」「できた!」「楽しかった!」と言える授業を行っているだろうか？忙しい毎日ではあるが、日々研修を重ね、教員としての指導力を高めていくことが、誇りと自信につながる。子どもの笑顔をたくさん見るためにも、研修を大切にしていきたい。